

試験時間

60分

【注意事項】

1. 試験監督(試験開始)の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題冊子は1ページから3ページまであります。
4. 試験監督の指示により、問題冊子と解答用紙に受験番号および氏名を記入しなさい。
5. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて試験監督に知らせなさい。
6. 試験終了後、問題冊子と解答用紙とともに机上に置いておくこと。持ち帰ってはけません。

以下の文章を読み、設問に答えなさい。

マックス・クライバーといえば、代謝量が体重の3/4乗に比例することを確立した人物だが、彼がこんな計算をしている。ここに10トンの干草があるとする。これを500キロの雄牛2頭に食べさせても、体重2キロのウサギ500匹に食べさせても、結果は同じ。総体重1トンの恒温動物が食べれば、サイズに関係なく0.2トンの肉が新たにでき、6トンの糞の山もできる。ただし前にも見たように、食べる時間はサイズで違ってくる。ウサギは草の山を3カ月で食い尽くすが、ウシは14カ月かかる。時間はすべて体重の1/4乗に比例して長くなっていくのである。

さて今度は、同量の草をイナゴに食べさせたとしよう。体重1グラムのイナゴ100万匹、つまり総体重1トンのイナゴに食わせたとなると、9カ月で草の山がなくなったあかつき

には、200万匹(2トン)の新しく生まれたイナゴと6トンの糞ができることになるだろう。

早く肉を作りたければ、小さい動物を飼えばよい。少ない餌で肉をたくさん作りたいのなら、変温動物を飼えば恒温動物の10倍の収量がある。ウシを食うということは、時間的にみても、エネルギー的にみても、はなはだ贅沢なことなのだ。

(本川達雄, ゾウの時間 ネズミの時間, 中央公論新社, 1992)

設問 人間が「はなはだ贅沢な」牛肉を食べ続けている理由を考え、そのうえで「牛肉を食べる」ことに対するあなたの意見を800字以内にまとめなさい。

以上